



左からスペースの山口弘晃名古屋本部長、渡邊会長、J Pビルマネジメントの柴田浩明課長、プラセスの甲村代表取締役

クリスマスツリー素材を 交通安全グッズに再利用 スペース、小学生に配布

商業施設などの空間設計を手掛けるスペース（東京都中央区、佐々木靖浩社長）は、KITTE名古屋（名古屋市中村区）に設置されたクリスマスツリーの素材を再利用したオリジナルキーホルダーを地元の小学生に配布する。配布に先立ち、2022年12月23日にKITTE名古屋で寄贈式を開き、中村区安心・安全で快適なまちづくり推進協議会（渡邊豊会長）から目録と感謝状を受け取った。オリジナルキーホルダーの配布は、KITTE名古屋、自動車樹

脂金型の組立販売などを手掛けるプラセス（愛知県豊川市、甲村尚久代表取締役）との共同の取り組み。クリスマスツリーの素材には、暗い場所で光る蓄光プラスチックが約5万個使われている。これをキーホルダーに再利用することで、暗がりでの交通安全を啓発する。キーホルダーは1000個制作し、2月20日に中村区内の小学校15校に配布する。

オリジナルキーホルダーの企画に携わったスペースの尾西雄一郎クリエイティブディレクターは「蓄光プラスチックは自動車の内装材をリサイクルしたもので環境に優しい。クリスマスイベントが終わった後もごみにならないツリー

にしたいと考え、交通安全グッズの寄贈に至った」と企画の経緯を説明し、「交通安全意識の向上につながるばうれしい」と語った。渡邊会長は「子どもたちの交通安全意識の向上につながるキーホルダーをいただき、感謝している」と述べた。

ツリーに使われた蓄光プラスチックは自動車の内装材が原材料。約1カ月かけて制作した。「ライトダウン」をテーマとしたクリスマスイベント「暗がりのクリスマス」に使用された。イベントではあえて照明を抑えてツリーを展示。電力逼迫（ひっぱく）などを背景に、電気を当たり前に使う日常に思いをはせるきっかけとした。

